

仕 様 書

1. 調達件名

地域連携システム一式（調達）

2. 調達目的

地方独立行政法人堺市立病院機構（以下「発注者」という。）における第4期病院総合情報システムの更新計画に沿って、地域連携システムの調達を行う。

3. 納品場所

堺市西区家原寺町1丁1番1号 堺市立総合医療センター

4. 納品期間

契約締結日から令和7年12月26日までとする。

※本稼働日 令和7年11月25日（火）

5. 調達範囲

調達するソフトウェアおよびハードウェアについては別紙「調達機器一覧」を参照すること。

6. 業務内容

受託する者（以下、「受託者」とする）は、システム調達を実施するにあたっては、次の業務を行うこと。

（1）基本事項

- ・ 受託者は、本調達に必要な体制を設けること。
- ・ 作業従事者は、過去に本仕様と同等の作業に従事した経験を有すること。また、情報セキュリティに対する一般知識及び関係法令への理解を有し、作業時に実践できる者であること。
- ・ 受託者は発注者と協議し、業務の目的、実施体制、実施内容、実施スケジュール、管理方法等の基本事項をまとめたプロジェクト計画書を提示し承認を得ること。
- ・

（2）他社システム及び医療機器との接続

- ・ 別紙「オンライン接続一覧」にあげる項目について指定業者とデータ連携を行うこと。
- ・ 通信の仕様は現行踏襲とする。仕様を変更する場合は発注者、接続先業者と協議の上決定すること。
- ・ 接続先業者が必要な費用は見積りに含めないこと。

(3) データ移行

- ・ 調達範囲に記載している現行システムのデータベースに存在するデータについては原則全てのデータを移行すること。次期システムで移行しないデータについては事前に発注者の合意を得ること。
- ・ 調達範囲に記載している現行システムのサーバに存在するファイルについては原則全てのファイルを移行すること。次期システムで移行しないファイルについては事前に発注者の合意を得ること。
- ・ 調達範囲に記載している現行システムのサーバ内に含まれるデータで、運用上必要と思われるものについては積極的に提案を行い、運用に支障が発生しないよう努めること。
- ・ データ抽出費用について、受託者が実施する場合は見積りに含めること。受託者と違う業者に依頼しなければならない場合は含めないこと。

(4) プロジェクト管理及び導入支援

- ・ システム導入に向けたマネジメント及びプロジェクト管理を行うこと。
- ・ ワーキンググループの運営及び管理を行うこと。運営にあたっては、発注者職員と受託者にて日程及び運営内容の調整を密に行い、発注者職員をサポートすること。
- ・ マスタの作成が必要な場合はマスタ作成用シートの提供や一括登録など、発注者職員にかかる業務負荷の軽減を協力的に行うこと。
- ・ 院内全体でのリハーサルは実施しない。小規模や部門でのリハーサルについては必要時に発注者と協議の上計画すること。
- ・ プロジェクトの進捗具合について発注者に報告すること。報告の頻度や回数については事前に発注者と協議し合意を得ること。
- ・ 必要に応じて電子カルテベンダが実施する会議に参加し、進捗・課題の共有を行うこと。

(5) サーバの設置及び提案

- ・ 発注者が別調達で準備する仮想サーバ内にシステムをセットアップすること。
- ・ 仮想サーバの構成は以下の通りとする。

サーバ OS : Windows Server 2022 Standard

vCpU コア数 : 4

vMEM 容量 (GB) : 16

ディスク 1 容量 (GB) : 120

ディスク 2 容量 (GB) : 880

バックアップ用ローカルディスク容量 (GB) : なし

データバックアップ用共有領域容量 (GB) : 1800

システムバックアップ用共有領域容量 (GB) : 120

※データベース、Office 等のソフトウェアは対象外とする。

(6) ネットワークの設計及び設定

- ・ IP アドレスは発注者が指定するものを設定し、院内ネットワークに共存できるようにすること。システム構成上、新たに VLAN や特殊な設定を行う必要がある場合は発注者とネットワーク保守業者で協議の上決定すること。
- ・ 基幹ネットワークについては発注者の既存ネットワーク機器を利用すること。

(7) セキュリティの確保

- ・ 受託者は発注者のセキュリティポリシーを遵守すること。

(8) システム要件

- ・ 調達範囲のシステムに関する必要な機能は別紙「システム要件仕様書」に記載の通りとする。

(9) 操作教育

- ・ 発注者の求めに応じて操作教育を実施すること。回数や頻度については発注者と協議の上決定すること。

(10) 本稼働立ち会い

- ・ 現場もしくは待機場所で3営業日の立ち会いを行うこと。
- ・ 立ち会い時間は8時30分から16時までとするが、当院の業務都合で時間内に当てはまらない場合は臨機応変に対応を行うこと。
- ・ 本稼働後の問題点の発生状況により、その後の対応を発注者と協議の上決定すること。
- ・ 立ち会い期間中は問題点の管理を行い、解決に向けた対応を行うこと。また、日々の立ち会い終了時には発注者へ問題点の発生状況及び対応状況の報告を行うこと。

(11) その他

- ・ システムの監視については発注者職員もしくは委託しているヘルプデスクへ引継ぎを行うこと。
- ・ 発注者が準備するクライアント端末（電子カルテ端末）へセットアップを行うこと。セットアップに関する調整は発注者・委託しているセットアップ担当業者と協議の上決定すること。
- ・ 受託者が納入するクライアント端末については受託者が責任を持ってセットアップを行うこと。ウイルス対策ソフトや時刻同期など、端末の詳細設定については発注者と協議の上決定すること。
- ・ 別紙「既存機器一覧」に記載されている機器については流用を行うため、必要に応じて使用できるように設定すること。
- ・ 本仕様に特に定めのない事項についても、本業務に関連する費用は原則受託者が負担すること。ただし、仕様を大きく逸脱するような事象が発生した場合は発注者と協議の上決定すること。

7. 保守体制

新システム検収後、発注者と受託者で保守契約を別途締結する。

- ・ 保守契約の期間は7年間とする。ただし、単年度契約とするか、複数年契約とするかは協議の上決

定する。

- ・ 保守内容については納品期間中に協議の上決定する。

8. 納品物

本業務の成果物として、次に示すドキュメント類を電子媒体にて発注者に提出すること。

| 項 | 作成ドキュメント | 数量 |
|----|---------------------------|-----|
| 1 | プロジェクト計画書 | 1 式 |
| 2 | システム操作マニュアル | 1 式 |
| 3 | 業務マニュアル (ワンポイント資料含む) | 1 式 |
| 4 | システム運用マニュアル (障害対応マニュアル含む) | 1 式 |
| 5 | システム設計仕様書 | 1 式 |
| 6 | 連携インターフェース仕様書 | 1 式 |
| 7 | テスト仕様書兼報告書 | 1 式 |
| 8 | 本稼働切替手順書兼結果報告書 | 1 式 |
| 9 | 各種打合せ資料 | 1 式 |
| 10 | 打合せ議事録 | 1 式 |

9. その他

(1) 秘密保持

- ・ 受託者は、本業務を実施するにあたり知り得た情報を、第三者に開示または漏洩してはならない。

(2) 個人情報の保護

- ・ 受託者は、個人情報保護に関する法律、不正アクセス行為の禁止等に関する法律等の関連法規を順守し、個人情報を適正に取り扱うこと。

(3) 安全作業義務

- ・ 受託者は、安全には十分に配慮して作業を行うこと。

(4) 廃棄物の処理

- ・ 受託者は、作業により発生した廃材等は関連法規に基づき、適正に処理すること。

(5) 受注後の留意事項

- ・ 法令を遵守し、本法人にとって最適なシステムとなるよう業務を遂行すること。
- ・ 本契約の履行にあたっては、本法人に必要な報告を行い、確認及び了解を求めることについて、遺漏なきよう対応すること。
- ・ 本仕様書に定めのない事項についても、本契約に関連する費用は原則受託者が負担することとする。

(6) 疑義等

- ・ 本仕様書に特に定めていない事項については、協議の上決定するものとする。

【別紙】調達機器一覧

I. ソフトウェア

| 項番 | 品目 | 数量 | 単位 | 備考 |
|----|---|----|----|----|
| 1 | 地域連携システム(株式会社ファーストプレス firstpass/community-link) | 1 | 式 | |
| | 基本機能 | | | |
| | 地域連携機能 | | | |
| | 連携文書機能 | | | |
| | 医療相談機能 | | | |
| | がん相談機能 | | | |
| | 退院支援機能 | | | |
| | FAX機能 | | | |

II. ハードウェア

| 項番 | 品目 | 数量 | 単位 | 備考 |
|----|---------------------------------------|----|----|------------|
| 1 | FAX送信関連 | 1 | 式 | |
| | 【内訳】 | | | |
| | ESPRIMO D7014/R(24時間ヘルスケアモデル) | 1 | 台 | FMVD60002 |
| | CPU変更 i3-13100 → i5-13400 | 1 | 個 | FMCPRC1AW |
| | DVD-ROMドライブユニット | 1 | 台 | FMCBAY0DP |
| | リカバリディスク、ドライバズディスク(windows11Pro64bit) | 1 | 枚 | FMCRDD2A8 |
| | ディスプレイ E22-8TC LED(抗菌、D-MODE対応) | 1 | 台 | VL-E22-8TC |
| | まいと〜く FAX 9 Pro+OCXモデムパック | 1 | 台 | 0868335 |
| | MD50M for まいと〜く II-NP | 1 | 台 | 0000380 |

【別紙】 オンライン接続一覧

| システム名称 | 開発事業者 |
|------------------------------|-----------------|
| 電子カルテシステム (HOPE LifeMark-HX) | 富士通Japan株式会社 |
| 医事会計システム (医事ライブラリ) | 富士通Japan株式会社 |
| 統合診療支援システム | 富士フイルムメディカル株式会社 |

【別紙】

システム要件仕様書

| 仕様番号 | | 内容 |
|------|----|--|
| 1 | | 地域連携システム |
| | 1 | 基本機能 |
| | 1 | システム管理業務(ユーザマスタ等の登録等)と日常業務が使用者権限設定により区別できること。 |
| | 2 | 地域連携室の利用者内で共有できる掲示板機能を保持しており、掲載期間を設定でき、掲示内容は色分けできること。 |
| | 3 | 連携医療機関との対応状況をマスタで分類し登録管理できること。またその情報は統計処理画面より出力できること。 |
| | 4 | 電子カルテシステム又は医事会計システムと患者基本情報が連携できること。 |
| | 5 | 電子カルテシステムと入退院情報が連携できること。 |
| | 6 | 電子カルテシステムと患者病名情報が連携できること。 |
| | 7 | 連携医療機関とFAXの送受信による文書情報連携がシステム上で直接行えること。 |
| | 8 | FAX送信する前に一度プレビュー画面から内容を確認できること。 |
| | 9 | FAX送信機能を利用する場合、そのFAX番号はマスタ上で複数管理でき、送付時に適宜選択して送付できること。また送付先番号は直接入力にも対応していること。 |
| | 10 | FAX送信時、相手先が話中の場合は、自動リダイヤルができること。またエラー状態となった場合は、管理画面でその状況を把握することができ、簡単に再送ができること。 |
| | 11 | FAX送信時、相手先の環境が不安定な場合、連携先ごとに安定した送信が可能となるよう通信速度を連携先マスタにて設定できること。 |
| | 12 | 文書の種別毎に優先度を付けてFAX送信できること。 |
| | 2 | 紹介受付 |
| | 1 | 連携医療機関からの紹介状を複合機経由でFAX受信し、受信データをPDF形式で、直接システムに取り込み参照しながら紹介受付できること。 |
| | 2 | FAX受信一覧で医療機関で検索できること。 |
| | 3 | 紹介受付情報を登録/変更/削除ができ、紹介受付時の文書情報(紹介状等)をPDF等のイメージデータで管理できること。 |
| | 4 | FAX紹介状の編集ができること。①回転保存(送付されたFAXが逆向きになっている場合に回転させ、保存することが可能)②削除(配信状など不要ページを選択し、削除することが可能)③移動(ページの順番を変えて保存することが可) |
| | 5 | 受信したFAX紹介状を別にFAX送信された文書との統合ができること。①複数に分割されてFAX送付された文書の統合 ②別に保存したFAX文書との統合 |
| | 6 | 一つのFAX送信された文書(複数の患者の紹介状を同時に送信された場合)を分割することができること。 |
| | 7 | 連携医療機関からFAX受信した文書が、既に登録されている紹介情報の追加文書である場合は、そのイメージデータを既存の紹介情報に最大5つまで関連付けすることができること。また登録されたイメージデータは、それぞれ関連付けた日時が表示され、切り替えて参照で |
| | 8 | 新患の場合、患者IDの登録を行わず、後日来院し、患者IDを登録した段階で、紹介情報と患者IDの関連付けができること。 |
| | 9 | 依頼目的、紹介経路(連携室経由の予約、医師間での予約、事前予約なし)が管理できること。 |
| | 10 | 患者の二重登録チェック機能を有していること。 |
| | 11 | 連携医療機関情報は医療機関名、診療科、医師名、電話番号、FAX番号が登録できること。 |
| | 12 | 紹介受付時の当院担当医、及びその後担当する医師が変更された場合に履歴で管理できること。 |
| | 13 | 紹介患者情報として氏名、フリガナ、性別、生年月日、患者番号が登録できること。 |
| | 14 | 連携医療機関への予約票(予約回答)が作成できること。 |
| | 15 | 連携医療機関への予約票(予約回答)は、システムから直接FAX送信できること。 |
| | 16 | 検査予約時の説明用添付文書等は予め用意されたPDFファイルから選択して同時に印刷ができること。また当該添付文書は紹介受付の検査依頼内容と連動して初期選択されること。 |
| | 17 | 予約票発行画面の予約日時は、電子カルテシステムと予約情報の連携をしている場合は、既に電子カルテシステムにオーダ登録された日時から取り込むことができること。また手入力でも登録が可能であること。 |
| | 18 | 予約票発行画面において送付状の作成ができ、予約票と同時に印刷ができること。 |
| | 3 | 患者管理 |
| | 1 | 紹介や逆紹介患者の管理ができるとともに、紹介・逆紹介関係の無い情報提供依頼や情報入手のみの患者も合わせて管理できること。 |
| | 2 | 病名情報が管理できること。病名は紹介依頼時の病名、受診後に確定した病名の登録ができること。なお確定した病名は病名マスタの画面から選択入力できること。また既に電子カルテシステムに患者病名が登録されている場合、選択登録が可能なこと。 |
| | 3 | 一画面にて当該患者の紹介/逆紹介/情報提供/情報入手の履歴が一覧で確認でき、それぞれに、依頼日、連携医療機関名、連携医、依頼内容、担当医、依頼病名が表示されるこ |

| 仕様番号 | | 内容 |
|------|----|--|
| | 4 | 上記一覧画面は新規登録順以外に、連携医療機関別、依頼病名別にまとめて表示ができ、選択するとその詳細内容が表示され、連続して切り替え表示ができること。 |
| | 5 | 入退院履歴のある患者は、電子カルテと連携し、地域連携システム上で入退院日、診療科、病棟、病室を表示できること。 |
| | 6 | 連携室より発行する報告書の種類はマスタ上で設定でき、患者状態(受診、入院、退院等)に応じて送付する予定文書が自動生成できること。また当該文書の添付文書等は予め用意されたPDFファイルから選択して同時に印刷ができること。なお送付状の作成もできること。 |
| | 7 | 連携室より発行する報告書は直接FAX送信できること。 |
| | 8 | 紹介や逆紹介情報登録時、紹介医療機関以外に関係機関情報(かかりつけ医、居宅介護支援事業者、訪問看護ステーション等)を登録できること。またその内容は、関係機関名、担当者、電話番号、FAX番号、備考とすること。 |
| | 9 | 汎用的に使用できる連絡票が作成できること。また当該文書の添付文書等は予め用意されたPDFファイルから選択して同時に印刷ができること。なお送付状の作成もできること。 |
| | 10 | 送付文書を履歴で管理できること。 |
| | 11 | 連絡票は、システムから直接FAX送信できること。 |
| | 12 | 送付文書を履歴で管理できること。 |
| | 13 | 連携患者に対し、連携室で行わなければならない業務を、患者の紹介/逆紹介/情報提供/情報入手ごとに進捗管理(予定実績管理)でき、業務種別、発生日、期限日、完了日、内容が登録できること。 |
| | 14 | 進捗管理の内容は、別画面にて、複数患者を一覧表示でき、患者番号、患者氏名、医療機関名、期限日(範囲指定)、発生日(範囲指定)、完了日(範囲指定)、完了状態で検索できる |
| | 15 | 紹介患者を受診予定日指定で一覧表示でき、更に印刷することができること。 |
| | 16 | 紹介患者の状況(入院中、退院、転帰、治癒、逆紹介等)が管理できること。 |
| | 17 | 紹介/逆紹介/情報提供/情報入手ごとに、マスタで自由設定可能な統計分類項目を、最大5項目まで設定でき、診療科別の件数統計として集計できること。 |
| | 18 | 逆紹介は紹介元返送(Uターン)、他機関逆紹介(Jターン)、新規逆紹介(Iターン)を区別して、登録できること。 |
| | 19 | 最終更新者の表示ができること。 |
| 4 | | 業務進捗管理 |
| | 1 | 紹介受付、受診報告、入院報告、退院報告、その他連携室が対応する各管理項目を切り替えて進捗管理ができること。 |
| | 2 | 設定された期限日を元に処理すべき未対応項目が一覧表示でき、対応を促せること。 |
| | 3 | 一覧表示されたFAX送信予定の文書は、一括で送信ができること。 |
| | 4 | 紹介/逆紹介情報にて管理される項目を検索項目として進捗状況の一覧を表示できること。内容は、紹介、フェーズ(イベント)、受診連絡、医師報告書、逆紹介等の選択表示が可能な |
| | 5 | 以下の表示内容は各種項目別に並び替えができること。 (来院日、患者氏名、紹介元医療機関、受診報告書の報告予定日及び報告日、逆紹介日、逆紹介先医療機関) |
| | 6 | 検索後に表示された一覧画面より画面表示内容をCSV形式で直接出力できること。 |
| 5 | | 返書管理 |
| | 1 | 医師による作成が必要な文書情報を、連携室が紹介患者の来院情報を登録した時点で、未報告文書として自動生成できること。 |
| | 2 | 自動生成する文書は、第一報、経過報告、最終報告等、当院で自由に設定できること。 |
| | 3 | それぞれの文書に対し、必要に応じて作成期限日を来院日を起点に自動設定できること。 |
| | 4 | 作成された文書に対し実績登録できること。 |
| | 5 | 未報告文書を検索でき、一覧で画面表示できること。 |
| | 6 | 未報告文書のチェックリストが科別、医師別に出力できること。 |
| 6 | | 情報配信 |
| | 1 | 連携医療機関に対しての情報配信機能として、医師体制表、年末年始のお知らせ等の文書データを任意の設定時間にFAXにて自動配信できること。 |
| | 2 | 情報配信の種類に応じ配信先を選択できるように、最大20グループを登録する機能を有していること。 |
| | 3 | 連携医療機関情報の作成及び変更を配信設定時にも柔軟にできること。 |
| 7 | | 統計 |
| | 1 | 統計データの有効活用を考慮し、統計帳票はEXCEL形式で出力できること。 |
| | 2 | 紹介統計として、科別医師別紹介患者数 科別依頼内容別紹介患者数 科別検査項目別紹介患者数 連携医療機関別医師別患者数 科別経路別紹介患者数 年齢別紹介患者数 報告状況表 科別医療機関別患者数 科別地区別医療機関別患者数 科別種別別医療機関別患者数 経路別医療機関別患者数が出力できること。 |

| 仕様番号 | | 内容 |
|------|----|--|
| | 3 | 逆紹介統計として、科別医師別逆紹介患者数 連携医療機関別医師別患者数 逆紹介患者数、年齢別逆紹介患者数 報告状況表 科別医療機関別逆紹介患者数 科別地区別医療機関別逆紹介患者数 科別種別別医療機関別逆紹介患者数が出力できること。 |
| | 4 | 紹介／逆紹介／情報提供／情報入手／連携医療機関のデータをCSV形式等で出力できる |
| | 5 | 統計は汎用的に利用できるよう抽出データ(紹介、逆紹介、文書情報)、抽出条件、表示項目を指定し、月別推移やクロス集計を作成できること。作成条件は登録でき、統計処理画面に表示されること。 |
| | 6 | 抽出条件をユーザごとに保存できること。また保存条件は永久、ログアウトまで、保存なし、で設定できること。 |
| | 8 | 他部門共有 |
| | 1 | 電子カルテシステムで選択されている患者の紹介や逆紹介情報が医療機関別に一覧で参照できること。 |
| | 2 | 一覧の紹介や逆紹介情報へ関連付けられている文書やPDFを閲覧できること。 |
| 2 | | 連携文書管理システム |
| | 1 | 文書作成管理 |
| | 1 | 地域連携システムで指定された報告必要(予定)文書・作成済報告書を医師が確認できること |
| | 2 | 患者IDを指定した場合は、報告必要文書情報と作成済報告書情報が同一画面上で表示できること。 |
| | 3 | 患者IDを指定しない場合は、使用(ログイン)している医師の文書情報を多く表示させるため、報告必要文書情報と作成済報告書情報をタブで切り替えて表示できること。 |
| | 4 | 既に地域連携室で紹介患者登録を行っている患者の文書を作成する場合、患者情報、送付先医療機関及び医師名が自動で設定されていること。 |
| | 5 | 院内医師による受診時報告(第一報)が作成できること。 |
| | 6 | 院内医師による経過報告文書が作成できること。 |
| | 7 | 院内医師による診療情報提供書(紹介状)が作成できること。 |
| | 8 | 電子カルテシステムと利用者情報の連携が可能なこと。 |
| | 9 | 新規逆紹介(Iターン)や紹介元以外の医療機関への逆紹介(Jターン)の場合は、地域連携システムで保持している医療機関情報から検索することができること。なおマスタに無い場合は、直接手入力が可能なこと。更にその場合は連携室に手入力したことをマーク等で通知 |
| | 10 | 新規逆紹介(Iターン)や紹介元以外の医療機関への逆紹介(Jターン)の場合、連携室で登録した逆紹介情報と関連付けが連携室でできること。 |
| | 11 | 文書作成時、当該患者、別患者を問わず、過去に作成した文書からの複写ができること。 |
| | 12 | 診療科ごとの文章テンプレートを作成できること。 |
| | 13 | 医師ごとの文章テンプレートを作成できること。当該テンプレートは文書作成時にそのままタイトル(キーワード)を登録してテンプレートとして新規に登録ができること。またテンプレートを利用する場合は、タイトルで検索ができ、必要に応じてそのテンプレートの修正ができること。 |
| | 14 | 診療情報提供書作成時、紹介先受入確認中の場合は紹介先未確定とし、医療機関名を表記せず印刷できること。 |
| | 15 | 文書は書きかけ保留(一時保存)ができること。 |
| | 16 | 連携室に対し、システム上で郵送依頼ができること。また連携室では、連携文書の一括印刷、郵送ラベルが発行ができること。 |
| | 17 | 連携先医療機関の事前予約が必要な場合は、連携室に対し、システム上で発行依頼ができること。 |
| | 18 | 郵送依頼した連携文書に添付資料(CD-ROM等)の有無をチェック式で登録できること。またその内容は連携室で確認できること。 |
| | 19 | 連携室に郵送やFAXを依頼した場合、連携室の対応状況が医師側で確認できること。 |
| | 20 | 文書を作成する医師名の連名対応ができること。 |
| | 21 | 医師が自ら最終報告の管理ができ自身の判断で最終報告とすることができること。 |
| | 22 | 文書が作成完了した後に修正された場合、過去の文書も保持し、改版履歴が管理できること。 |
| | 23 | 上記修正に関して更新履歴(日時、更新者)の管理ができること。 |
| | 24 | 返書作成が不要の場合は医師自ら予定返書を返書不要状態とするか、連携室でのみ設定変更可能とするか設定できること。 |
| | 25 | 医師自身の予定以外に診療科全体の報告必要文書状況も把握できること。 |
| | 26 | 各文書は送付先医療機関の住所印刷ができ、窓空き封筒での対応が可能であること。 |
| | 27 | 受診日からの期限日数をマスタで設定でき、報告必要文書一覧に報告期限日をわかりやすく表示できること。 |
| | 28 | 連携室側の機能として、医師の報告必要文書の一覧が確認でき、また不要な場合は削除することができること。 |
| | 29 | 連携室に郵送やFAXを依頼した場合、連携室側で印刷する際に送付状が作成できること。 |
| | 30 | 作成された文書は、富士フィルム社製CITAと連携できること。 |
| 3 | | 医療相談システム |
| | 1 | 基本機能 |

| 仕様番号 | | 内容 |
|------|----|---|
| | 1 | 地域連携システムと連携し、紹介医療機関が共有できること。 |
| | 2 | 使用者権限設定により地域連携システムとワンタッチで画面の切り替えができること。 |
| | 3 | システム管理業務(ユーザマスタ等の登録等)と日常業務が使用者権限設定により区別できること。 |
| | 4 | 医療相談室の利用者内で共有できる掲示板機能を保持しており、掲載期間を設定でき、掲示内容は色分けできること。 |
| | 5 | 連携医療機関との対応状況をマスタで分類し登録管理できること。またその情報は統計処理画面より出力できること。 |
| | 6 | 電子カルテシステム又は医事会計システムと患者基本情報が連携できること。 |
| | 7 | 電子カルテシステムと入院退院情報が連携できること。 |
| | 8 | 電子カルテシステムと患者病名情報が連携できること。 |
| 2 | | 相談票 |
| | 1 | 相談情報はケースNo.、部門、相談種別、対象者名、対象者患者番号、相談者、相談者患者番号、対応者、初回相談日、対応日、相談方法、対応区分(複数選択が可能なこと)、相談結果、終了区分、退院日、退院区分により検索ができること。 |
| | 2 | 記録内容の文章をキーワードにて検索できること。 |
| | 3 | 検索結果はケース単位(相談票単位)、経過記録単位(対応単位)の双方で表示できること。 |
| | 4 | 相談票は受付情報、対応者情報、相談者情報、対象者(患者)情報が登録できること。 |
| | 5 | 相談票は受付情報として対応時間が管理できること。開始時間と終了時間より簡便に計算できること。 |
| | 6 | 相談票は相談者と対象者が同一の場合はどちらかに登録した情報を複写できること。 |
| | 7 | 相談票は相談内容、対応内容、対応結果が登録できること。 |
| | 8 | 相談票は相談者、相談内容、依頼ルートが分類(コード)化されて、統計集計に反映できること。 |
| | 9 | 相談者情報が匿名でも登録できること。 |
| | 10 | 相談票は対象者は当院の患者以外(当院患者番号無し)も登録できること。 |
| | 11 | 相談票を印刷できること。 |
| | 12 | 相談票に対し他部門で作成された文書やシステム管理外の情報を、以下の拡張子のファイルで添付登録できること。(PDF、JPG、JPEG、JPE、GIF、PNG、DOC、DOCX、XLS、XLSX) |
| | 13 | システムで標準で管理される項目以外に、当院で自由に項目をマスタで追加設定できる補足情報を管理できる画面機能を保持すること。またその内容は印刷可能なこと。 |
| | 14 | 過去の相談票と補足情報を複写して新規に相談票を登録できること。 |
| | 15 | 相談方法と対応区分は項目の選択以外に回数の登録もできること。 |
| | 16 | 入院退院情報を連携している場合は、入院に関する各種日数を表示できること。 |
| | 17 | 備考欄は必要に応じて日報に記載できること。 |
| | 18 | 相談記録内容は過去の内容を参照して入力できること。 |
| | 19 | 依頼元及び転帰先は連携医療機関マスタから登録できること。 |
| 3 | | 経過記録 |
| | 1 | 継続的にフォローが必要な場合に経過を記録できること。 |
| | 2 | 備考欄は必要に応じて日報に記載できること。 |
| | 3 | 経過記録に対し他部門で作成された文書やシステム管理外の情報を、以下の拡張子のファイルで添付登録できること。(PDF、JPG、JPEG、JPE、GIF、PNG、DOC、DOCX、XLS、XLSX) |
| | 4 | 経過記録が印刷できること。 |
| | 5 | 相談方法と対応区分は項目の選択以外に回数の登録もできること。 |
| | 6 | 院内で共有が必要な情報は経過記録を複写し、情報を追加・変更した上で、公開指定できること。また、それらは電子カルテシステムより参照可能なこと。なお公開済であるかどうかの判別ができること。 |
| | 7 | 経過記録内容は過去の内容を参照して入力できること。 |
| 4 | | その他業務支援機能 |
| | 1 | 相談票に当院独自の統計分類を最大10項目登録でき、統計分類別の集計が出力できること。 |
| | 2 | 統計分類はマスタ化され、当院で自由に追加/変更が行えること。 |
| | 3 | 事前にマスタ登録したテンプレート文書を元に、カンファレンス議事録等の定型文書を相談票の添付文書として登録できること。 |
| | 4 | 相談票、経過記録以外にメモを登録できる機能を有すること。 |
| | 5 | 事前にマスタ登録したExcel形式のテンプレートを元に、相談票単位で簡便に資料を作成し印刷できること。また当該資料は作成時に自動で相談票にファイル添付できること。 |
| 5 | | 統計・帳票 |
| | 1 | 指定日、指定期間における相談者一覧及び、相談件数の集計ができること。 |
| | 2 | 相談票をいくつかの部門に分け、一覧および統計集計可能なこと。 |
| | 3 | 相談票を対応者別に一覧および統計集計可能なこと。 |
| | 4 | 統計はEXCEL形式で出力し、加工が可能なこと。 |
| | 5 | 月報は実件数(相談票単位)と延件数(経過記録単位)で集計できること。 |

| 仕様番号 | | 内容 |
|------|----|--|
| | 6 | 月報は科別と病棟別で集計できること。また、科別には、匿名、当院患者外の件数も表記されること。 |
| | 7 | 月報は転帰先で集計できること。集計は施設の種別、施設別に集計できること。 |
| | 8 | 相談票情報の各区分単位に集計が行えること。 |
| | 9 | 相談票情報の各区分は、相談者一覧、相談件数集計の双方に表示されていること。 |
| | 10 | 当院独自の分類で相談票を集計できること。 |
| | 11 | 月報は日付範囲指定をすることで、任意の期間で集計を行えること。 |
| | 12 | 相談票や経過記録の情報を一覧で出力できること。 |
| | 13 | 相談票や経過記録の情報はCSV形式で出力できること。 |
| | 14 | 各種CSVデータを簡便にクロス集計することができ、更にグラフ化できること。 |
| | 15 | 統計は汎用的に利用できるよう抽出データ、抽出条件、表示項目を指定し、月別推移やクロス集計を作成できること。作成条件は登録でき、統計処理画面に表示されること。 |
| | 16 | 抽出条件をユーザごとに保存できること。また保存条件は永久、ログアウトまで、保存なし、で設定できること。 |
| 6 | | がん相談 |
| | 1 | がん相談は治療状況、がんの状況(初発、再発、転移)、がん種が登録できること。 |
| | 2 | 対応内容、がん相談支援センターに対する感想、要望が登録できること。 |
| | 3 | 国立がんセンターがん対策情報センターで提示されている相談記入シートの形式で出力可能なこと。 |
| | 4 | 国立がんセンターがん対策情報センターで提示されているがんの種類および相談分類、対応分類等の各区分で統計集計ができること。 |
| 4 | | 退院支援システム |
| | 1 | 入退院支援一覧 |
| | 1 | スクリーニング対象者が一覧で表示できること。 |
| | 2 | 入退院支援一覧画面にて、画面で指定された病棟に現在入院中の患者のみ表示することができること。 |
| | 3 | 入退院支援一覧画面に、在院日数、相談依頼状況、スクリーニング実施状況、転帰先、患者家族面談実施状況、カンファレンス実施状況、退院支援計画書作成状況、介護支援連携実施状況、退院時共同指導実施状況、退院後訪問指導実施状況等が表示されること。またこのような入退院支援に関係する全ての確認プロセスの内、スクリーニングや退院支援計画書を除くプロセスは、最大4プロセスまで汎用的に管理できること。 |
| | 4 | スクリーニングや退院支援計画書以外の汎用的に管理するプロセスは実施日ごとにその日付を複数表示できること。 |
| | 5 | プロセスの内容項目はマスタで設定管理できること。 |
| | 6 | 設定した全ての確認プロセスは昇順・降順で表示の並び替えができること。 |
| | 7 | 確認プロセスが多い場合、入退院支援一覧画面の表示内容を必要最低限に縮小した簡易表示に切り替えができること。またその表示項目は各確認プロセスごとにマスタで設定できること。 |
| | 8 | 電子カルテシステムと利用者情報の連携が可能なこと。 |
| | 9 | 表示された一覧画面より画面表示内容をCSV型式で直接出力できること。 |
| | 2 | スクリーニング票 |
| | 1 | スクリーニング票が登録できること。 |
| | 2 | スクリーニング票が印刷できること。 |
| | 3 | スクリーニング票の登録内容に応じて、入退院支援対象かどうかシステムで自動判定できること。 |
| | 4 | スクリーニング票画面にて前回複写後、内容を編集できること。 |
| | 5 | スクリーニング票画面から入退院支援部門への調整依頼が可能相相談依頼画面が起動できること。 |
| | 6 | スクリーニング票は入院前の外来時にも作成ができ、その後当該患者が入院した場合は情報をシームレスに継続できること。 |
| | 3 | 退院支援計画書 |
| | 1 | 退院支援計画書が登録できること。 |
| | 2 | 退院支援計画書登録時、スクリーニング票に登録した内容が複写されること。また、複写する内容は事前にマスタ登録できること。 |
| | 3 | 退院支援計画書画面の各登録内容はチェック形式で登録できるようにすること。また、これらのチェック項目は、マスタ画面にて追加／削除や名称変更が行えること。 |
| | 4 | 退院支援計画書画面にて、事前に登録した定型文章を選択し、画面に設定後、編集できること。 |
| | 5 | 退院支援計画書画面にて、過去に入院し退院支援計画書が作成されている場合には、計画書情報を複写でき、内容を編集できること。 |
| | 6 | 退院支援計画書が印刷できること。 |
| | 4 | その他確認プロセス(患者家族面談、カンファレンス、退院時共同指導書、介護支援連携書) |
| | 1 | その他確認プロセスの項目が登録できること。 |
| | 2 | その他確認プロセスの各画面にて画面項目を前回複写後、その内容を編集できること。 |

| 仕様番号 | | 内容 |
|------|---|--|
| | 3 | その他確認プロセスの項目が印刷できること。 |
| | 4 | 画面内容はテンプレートや文章雛型の活用ができること。 |
| | 5 | 相談依頼一覧 |
| | 1 | 入退院支援部門側の画面に相談依頼された患者の一覧を表示できること。 |
| | 2 | 相談依頼者に報告する相談の経過を登録できること。また医療相談システムの記録から簡単に情報を登録し編集できること。 |
| | 3 | 情報を依頼した側と確認する側とで未読及び既読の表示ができること。 |
| | 6 | 統計 |
| | 1 | 入退院支援に関する情報はCSV形式で出力できること。 |
| | 2 | 上記CSVデータを簡便にクロス集計することができ、更にグラフ化できること。 |
| | 3 | その他確認プロセスの情報は各プロセス単位にCSV形式で出力ができること。 |
| | 4 | 抽出条件をユーザごとに保存できること。また保存条件は永久、ログアウトまで、保存なし、で設定できること。 |

【別紙】既存機器一覧

| 分類 | 品目 | メーカー | 型番 |
|------------|----------------|--------------------|----------------|
| プリンタ | インクジェットカラープリンタ | RICOH | SG-2200 |
| | | | SG-3200 |
| | | | SG-3300 |
| | モノクロレーザー | 京セラ | ECOSYS P4040dn |
| | | | ECOSYS P4140dn |
| | | | ECOSYS P4060dn |
| | カラーレーザー | RICOH | SP6420 |
| | | RICOH | IPSiO SP C320 |
| | | | SP C740 |
| FUJI XEROX | | DocuPrint CP310 dw | |
| 複合機・スキャナ | スキャナー | 富士通 | SP-1425 |
| | | | fi-7030 |
| | 複合機 | RICOH | SP-3700 |
| | | Canon | MF417dw |
| | | | MF467dw |
| | | FUJI FILM | Apeos C5570 |
| | | | Apeos 6580 |
| | | | Apeos C2570 |
| | | | Apeos 4570 |
| ラベルプリンタ | 小林クリエイト | IP-65 | |
| | | IP-225 | |
| | | IP-226 | |
| | | IP-320 | |